

平成25年度第2回 角館地域審議会会議録

日 時 平成25年11月15日（月）午後6時30分～午後8時10分

場 所 仙北市役所角館西庁舎 二階 第4会議室

出席委員 柴田政幸会長、吉田愼一副会長、石郷岡勇一委員、相馬博之委員
茂木千代太郎委員、藤原悟委員、小林郁男委員、新山睦子委員
千葉一明委員

欠席委員 宮田憲隆委員、黒澤昇委員、藤原久榮委員、雲雀明德委員
鈴木八寿男委員

出席仙北市関係者

仙北市長 門脇光浩
総務部長 高橋俊一
角館地域センター長 高村省弘
総合産業研究所参事 佐藤人志
商工課長 黒澤久美子
観光課 TIC 所長 冨木弘一
企画政策課長 平岡有介
企画政策課参事 高橋信次
企画政策課主任 鈴木匡尚

- 会議次第
- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 市長あいさつ
 - 4 案件
 - 1) 所得10%向上の具体策について
 - 2) 独自審議事項（テーマ）の決定
 - 5 閉会

企画政策課長

お足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、早速ですが、角館地域審議会を開催して参りたいと存じます。

議事の前まで、進行役を務めさせていただきます企画振興課長の平岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではじめに、柴田会長様よりご挨拶をお願いします。

柴田会長

皆様、大変お疲れのところお集まりいただきましてありがとうございます。夜間の開催ということで、皆様にはご難儀をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

この度の審議会では、共通テーマである所得10%向上の具体策について、そして、角館地域審議会としての独自テーマを決定することになります。この地域独自の問題や課題があるかと思いますが、それを解決してより良い地域となるよう、積極果敢な取り組みになるよう提言できればとも思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平岡企画政策課長

ありがとうございました。続きまして、門脇市長が皆様にご挨拶申し上げます。

門脇市長

大変お疲れのところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、10月29日で、私の第一期目の任期を終えました。これも皆様のご協力によるものと思っていますところです。10月30日から二期目を務めさせていただきます。二期目にあって、4つの大きな政策テーマを掲げさせていただきます。

一つは、世界基準の産業育成です。角館でいえば、世界基準の観光地づくりを進める上で、その素材や環境が大変すばらしいものがあります。TPPなどによる世界との関係など、農業であれまちづくりであれ、何であれ、そういった世界情勢・背景の中において、世界基準での取り組みをしなければならないと思っています。

二つ目には、組織の再編、行財政改革の推進です。平成33年くらいまでを目処に、現状の交付税、歳入が33億から35億円の減少が予想されます。こういった中、歳出をどうするかということです。考え方としては、歳入の減少分を歳出も同じように抑えようということもありますが、職員数が激減してきている中で、これまでの行政サービスを維持していくためには、チームワークしかないと思っています。その対策としての組織再編が必要と考えています。

三つ目は、市民協働によるまちづくりを今まで以上に進めていこうというこ

とです。これまで行政が担ってきたサービスを、民間にきちっとした形で移行していかなければならないと思っています。

最後に四つ目ですが、少子化等の人口減少問題に果敢に取り組んで行かなければならないと思っています。人口推計でみると2040年あたりには43%の人口減少があるだろうと言われていています。これをどうやって食い止めていくかということです。

委員の皆様におかれましては、各分野の専門の方々でありますので、皆様からのアドバイスが、仙北市の政策として取り組んでいけるよう頑張ってお参りますので、どうかよろしくお願ひいたします。

平岡企画政策課長

本日、出席しております職員を紹介いたします。

(職員紹介)

それでは、議事に移らせていただきますが、仙北市地域審議会の設置に関する告示第7条の規定に基づきまして、議長を柴田会長にお願ひし、以降の議事進行をお任せしたいと存じますので、よろしくお願ひします。

柴田会長

それでは、早速議事に入りたいと存じますが、確認しておきますが、本日は所得10%向上の具体策について、それぞれの専門の立場において、アドバイスをするような感じでお願ひしたいと思ひます。事前に配布された資料について評価が記載されていますが、その評価ではなく、何かわからないことがあればご質問をしてください。

鈴木主任

ご質問していただく前に、資料説明の前に、今後のスケジュールについてご提案し、その後に資料説明をさせていただきます。

ご審議いただき、頂戴した所得10%向上の具体策については、平成27年度当初予算に反映したいと思っています。従いまして、皆様からのご意見は、来年9月までの間にとりまとめる必要がありますので、どうぞよろしくお願ひします。

また、その具体策が有効であり、またゼロ予算でできるものなど、すぐにも取り組める策については、26年度事業として取り組めるよう関係各機関と情報を共有したいとも思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

なお、この審議会の内容については、会議録を作成し、皆様からご確認いた

だいた後に、仙北市のホームページにより公開したいと思っておりますのでご了承ください。

事前に配布した資料の他に、本日は、平成25年度産業振興事業の概要についても配布させていただいておりますので、参考にしていただければと存じます。

それでは、お手元に事前配布した資料につきまして、ご説明申し上げますが、事前配布ということもございますので、簡単な説明とさせていただきます。

なお、関係機関から職員が出席しておりますので、ご質問等がございましたら、お気軽にお願いします。

(資料説明)

柴田会長

説明が終わりましたので、ご質問やご意見を頂戴したいと思いますのですが、私から最初によろしいでしょうか。

アクションプランNo.10の件ですが、前に伺ったことがあります。樺細工工芸技術の研修などということがあるということですが、マイスター制度の状況・現状はどのようになっていますか。

黒澤商工課長

こちらについては、樺細工の件とは別に市長が認める分野での技能者を認定するものも一つとなっています。現在、6名の方々が認定されています。23年度においては5名ですが、かやぶき屋根の技術者の方が二人、伝統料理・郷土料理の指導者が一人、火ぶりがまくらの際に炭俵を使用していますが、その製作者の方が1人、縄ないの方が1人、合計5名です。24年度においては、わら細工技術者の方ですが、女性の方で1人、これで職人マイスターは現在6名となっており、その技術を地域の方々に伝えていくというような活動を行っていただいています。

もう一つですが、樺細工の技能者・後継者を育成するものがございますが、こちらについては、5年間の制度となっています。今年の9月に男性の方が5年間の修行を終えられ、昨年、今年と樺細工工芸展において、県知事賞を受賞されたということで、確かな技術を習得されています。更に、今年春からですが、二十歳になる女性でございますが、新たに修行に入りました。

技術者が高齢化する中で、若い方々を育成していくこの取り組みについては、技術を身につけたいという強い気持ちがないと、なかなか5年間という長い期間ですので続かないものですが、そういった若い方々を支援していきたいと思

っております。

門脇市長

今後、イタヤ細工、角館春慶についても取り組みたいと考えています。角館春慶については、秋田美術工芸大学と協定を締結しご協力をいただけるものと思っています。

柴田会長

若い方を育てる、専門家として育てること、それは、人口が減り、若い方が減りという中で、様々な産業を創る、そして所得を生み出していくということに繋がっていく取り組みだと思えます。

千葉委員

マイスター制度については耳慣れない制度でしたが、市の考え方、方向性があまりよく見えません。若い方に、伝統的なものを消滅させないようにその技術を身につけさせるために補助する、それだけなんですよね。その後のフォローがないんですよ。一般の方々へのアピールがないんですよ。紹介してあげたり。そういった方々の活動を写真に撮って展示してあげたりしているんですか。

平岡企画政策課長

昨年は、産業祭においてパネル展として紹介しました。今年は、種苗交換会があり、そういった機会を設けることができませんでしたが、今後も、更にそういった機会を増やしていかなければと思っていますところです。

千葉委員

そうでもしなければ、若い方々が目に触れる機会なんてありませんよ。育成して終わりでは駄目なんですよ。ホームページなんかで紹介してあげればいいんですよ。この場は、取り組みを批判する場では無いということですから、これぐらいにしておきますが。

柴田会長

角館にしても、農業従事者、農家が多いと思いますが、そういったことから、石郷岡さんからのご意見もいただきたいと思えます。

石郷岡委員

減反廃止や補助金廃止など、大変厳しい状況です。私は土地改良も関わって

いることから農業委員もやっていますが、大事なことは、農業をやる基盤をきちっと作ってあげること。そうすれば、やる気のある方はどんどんやっていけるだろうと思います。おかげさまで、私の地区は仙北市管内でもすばらしい環境を整えていただいておりますが、五反田は良いけど、三反は嫌だとか、もちろん、山間部に行けば一畝などが多く、それは絶対やりたくないとか。そうなれば、耕作放棄地が増えますし。今の農政は、耕作放棄地を作れと言わんばかりのものと思わざるを得ません。

圃場整備をしっかりとして、きちっとした基盤を整備すれば、主軸を米、足りない部分をその他で補っていくということができますが、整備されていないと、誰も米を作らないことは目に見えているわけです。しっかりと基盤整備し、やる気のある若者をつくっていかなければならないと思います。

佐藤参事

農業全般に対する総合産業研究所の取り組みをご紹介します。

平成22年度からスタートした総合産業研究所ですが、今現在、主に力を入れていることは、地産地消の推進ということと、食育推進活動ということでございます。

農商工の連携、農林水産業の6次産業化、観光との結びつきを強化を図っていきたくと。そしてもう一つは、地域ネットワークづくりをしていこうとしています。

その目標としては、一つは、商品開発の支援、マッチングを支援し流通開拓を行っていくこととしています。生産振興として園芸作物の委託栽培なども行っていこうと考えています。

具体的な取り組みとしましては、農商工のマッチング、商品開発のアドバイザー派遣、消費者モニターの設置、近隣消費地の開拓、いわゆる必ずしも首都圏ではなくても秋田市あたりへの販路を開拓できないものかと。ただし、市民の所得向上対策として進めてきておりますが、現在、地域経済にその成果が現れてきているかといいますと、それは未だだと思っています。しかし、ここ数年の内に、地域ネットワークも構築されてきていますし、6次産業化としての加工施設の設置支援なども行っていこうとも思っているところです。

門脇市長

昨日、政府自民党の農政部会の方々から聞いたお話ですと、マスコミ等で、例えば、10アールあたり15000円の補助が10000円とか5000円とか報道されておりますが、全く根拠の無い話と断じておりました。

これまでの半世紀に及ぶ減反政策からの脱却は、これは土地対策だと話して

いました。未利用地の最大活用ということですが、石郷岡委員の言われるとおり、農業の生産性を高めるため、担い手を確保するための基盤整備事業を進めなければならないという認識はしっかりとっていました。

ただ問題は、WTOだったりTPPだったり、米に偏在してきた日本の農業、米の自給率は高い割には、野菜、花木、畜産製品等は弱い。これらの自給量をどのように高めていくか、これを連動させなければならないと。そのための圃場整備については補助金を高くするとか、インセンティブを働かせた補助体系を作りたいとのこと。

柴田会長

同級生である石郷岡委員からは専門的な話で、私もなかなかわからないことも多いのですが、学生のころ彼から、「これから農業は米ばかり作ってはいけません。一年を通じて収入を得ることができるよう、畑を作りたいと思っているが、親父に反対されて困っている。」と聞いたことがあります。私は、百姓は米を作るものだと思っていましたが、そのような考えを持っている彼に感動したことを覚えています。

石郷岡委員には、これからの農業に対して、どのような政策が必要だと思っていますか。

石郷岡委員

つい先だってまで、角館も含めて西木のほうれん草は一生懸命頑張っていて、秋田県でも売り上げがすごかったんですが、ところが今、ほうれん草一束100円以上になることはありません。当初は150円位だったものが、今は60円とか。

いずれ、転作を進められてやっても、みんなが取り組むので、4年目位から供給過剰となって価格が下がる、供給過剰でなくても原価割れする。どうにかしなければと規模を拡大すれば労力も増えて、高齢者の方々はやりきれなくなってやめてしまう。減反すればするほど、転作作物の値段は下がるということです。そして、作らなくなればすぐに外国から輸入する。これが現実なんです。

5町歩あっても6町歩あっても、自分の子どもに農業をやらせようという親はいないのではと思います。10町歩や15町歩くらいないと。

秋田県では、日本一の枝豆を作ると言っていますが、去年位から儲からないとわかり、皆さん止め始めている。今後は、生産量がぐっと落ちると思うし、ネギだって果たしてどうなのか。2・3年位で違う作物に変更して作っていかなければならないと思っています。

米は駄目だ駄目だと言われていますが、一番手間がかからないと思います。

いくら価格が下がろうとも、今ある設備で作れますし。

これは私の持論ですが、3年から5年経つと、中国がきっと日本に米を売って欲しいと言ってくると思います。あの公害だらけの中国で作った米を、中国の富裕層は食べたいとは思わなくなるはずです。中国の一割の方々が日本の米を食べることになれば、おそらく日本人が食べる米が足りなくなるのではと心配もしているところですが、そう言った訳で、稲作については、あまり悲観することはないと思っています。

柴田会長

様々なジャンルから、いろいろな意見を出してもらいと思っていますので、どうぞ、他の委員の方々からもご発言をお願いします。

平岡課長

会議冒頭にお話しすれば良かったのですが、皆様の任期については27年3月までとなっておりますが、この度、市長からの諮問事項と、角館地域特有の独自テーマ等について審議いただきたいと思っています。26年度内にもう1・2回この会を開きながら、27年度中に諮問事項については答申、独自テーマについては提言という形になろうかと思いますが、最終的に諮問事項については三地区合同でまとめる、そういった流れになろうかと思っています。この度の回では、議論の出発点ということで、今後2回3回と開催していく中で、資料の提供も含め議論を深めていただくものと思っています。

本日は、独自テーマも決定していただくことにもなっていますので、時間配分の程よろしくをお願いします。

小林委員

角館地区については、観光産業がメインとなるとと思っています。東北6県で社長会というものがありますが、年二回、持ち回りで東北6県の各地を廻っています。今回は角館が当番で、花葉館に泊まりながら開催したわけですが、久々に武家屋敷を歩いて案内して廻ってみました。すると、見る場所が限られていて、半日案内して昼食を食べて解散と思っていましたが、間が持たないんです。見る場所、物が少ないんです。武家屋敷をメインにしていますが、外町の方にも足を運んでもらい長く滞在してもらえればと思っています。そのためには、「次はここ。次はここ。」と誘導するようなコース設定なども必要で、それで長く滞在してもらおう。そうすればお金を使うことも多くなるのではないかと思います。

更に、曳山会館を設けることによって、その観光PRと集客に大きく成果を

期待できるものではないと思います。要望も含めて、ぜひ、曳山会館を造っていただけないものかと思っています。

門脇市長

以前から、小林委員からは同じご要望をいただいております、町内の方々から多数の同じ要望をいただいております。

全国各地を出張する際、その地の同様の施設を見学したりしていますが、やはり、曳山会館としての機能だけでは運営が厳しいのではとのご意見も、それらを運営する団体のみなさんからいただいております。

例えば、角館は、テレビドラマやCM、映画などのロケが非常に多いのですが、それは、ここにそういった組織があることも要因ですが、ロケの記録、俳優さんと地域住民の方々とのふれあいの模様など、それらを写した写真が散逸している状況で、これは大変残念なことだと思っています。シネマドラマ館という、これは仮称で、例えばですけれども、角館シネマドラマ館というものを、秋田県全体に広げながら、フィルムコミッションがある角館が中心となっても良いかもしれません。これと曳山会館を一緒にと。これは私も実現させたいものと思っていますが、実は、ANA 総研から社員を観光課に一人お迎えしている状況です。ANA 総研とは、ANA グループのコンサルティング部門を受け持つシンクタンクですが、そこの優秀な研究員の招聘を、総務省と ANA と仙北市の三者の事業として取り組んでいます。

この和田さんという方ですが、その方に、そういった目線で町内を見てもらいたい、また、町内から少し離れた農村部なども含めて歩いてもらいたいと話しています。やはり、全国的に有名な資源を持っているところの記録を大切にしなければならないという視点が必要だという一点、もう一つは、障がい者や高齢者の方々が角館を訪れるときに、段差だったり道路状況だったり、冬期間のことも含め、非常に不便さを感じているとの声も届いています。こういった不便さを解消することも、やさしい観光地づくりに繋がるとご提案いただいております。

富木所長

外町を歩いてもらおうということから、駅前の観光案内所では、小さなパスポートをお渡しし、加盟店でのサービスを受けてもらうようにしています。武家屋敷地区以外の加盟店にも足を運んでもらえるようご案内しているところですが、ご利用なさった観光客の方々から好評をいただいております。

T I C では、体験プランを様々なところからご協力いただき、ただ観て廻るだけではなく、例えば、着物を着て歩いてもらうだとか、物作りをしてもらう

とか、様々な体験プランを提供するようにしています。

また、滞在時間を如何に延ばしてもらおうかということ、大学生の目線からまとめていただいているとう状況もあります。

柴田会長

私は武家屋敷に住んでいますが、武家屋敷だけが角館ではないと思っています。仙台からの中学生が修学旅行で訪れていたようで、そのうちの一つのグループから「神明社はどこですか？」と質問され、武家屋敷だけではなく興味を持っていただいているんだなと感心したことを思い出しました。

相馬委員

アクションプランは観光にあまりにも偏りすぎていると思います。観光に携わっている人も一握りだと思います。ここは、秋田県内でも一番の観光地だとも思っており、観光に力を注ぐことは当然必要なことだし賛成ですが、それ以外の工業や商業、サービス業などにもしっかりと力を入れないと、所得10%アップは無理だと思います。観光だけじゃではなく取り組んでいただかないと。

私は建設業ですが、アベノミクス効果で公共事業は増えてきていますが、民主党政権前からもそうでしたが、労務費が上がらず、東日本大震災の関係で資材単価が高騰し、いくら仕事が増えても会社としては、今のままでは利益は上がらないわけです。民主党政権では、予算が削減され公共事業が減少し、それに伴って建設業者の倒産なども増えました。作業員の新規採用もできないことから、少ないギリギリの人数で仕事をしている状況です。加えて価格競争による低価格入札となり、会社を存続させていかなければ雇用も守れないので、結果として作業員の賃金の引き下げなど、悪い方向になっていきます。

労務単価の向上がないと、従業員に還元できません。会社が元気にならないと無理なので、どうか、そういった課題にも取り組んでいただきたいと思っています。

茂木委員

農業関係ですが、アクションプランにも食品加工についてもありますが、食品加工するために、ある程度幅を狭めて、目標を定めておかないと。山菜の加工を進めるといっても、ワラビをやるのか、ゼンマイをやるのかなど、採る人・栽培する人も、加工する人もやりやすいのではと思います。

門脇市長

相馬委員のお話に関連して申しますと、結果として、どんな形が一番良いか

というと、仕事が増えて、その仕事での利益を社員、地域に分配していく。賃金等の格差が是正され、それによって労働意欲が高まるという循環がない限り、アベノミクスの効果は基本的に無いものと言われています。

そういいながら、公共事業においては、価格設定だったり、東日本大震災の影響による物資高騰もあり、仙北市においても応札いただけない物件もあつたりします。今、頭を悩ませているのは、市立角館総合病院の改築について、医療機器を除いて、建物等で40億円程度を見込んでいたものが、既に、基本設計の段階で16億円ほど上回るという状況です。消費税増税分もありますが、業者の方々に、これをおまけしてくれとは言えませんし、コストパフォーマンスを如何に高めていくかです。

一方では、新たな地域医療再生のための交付金事業を創設してほしいと国へ要望していかなければと。これは病院に限った話ではありません。

また、茂木委員のお話に関連しますと、一体何を作れば農業は再生できるのかということ、きちんと提案できていない状況で、大変申し訳ないと思っています。このアクションプランでは、食品加工産業ではクラスターを作りたいと。例えば、イチゴ栽培、肉用牛の大規模肥育だったり、スープ工場だったり、全てがこれらを原料とした二次製品を製造する企業等を、その中核となる企業の周りに、衛星的にサテライト的に増やしていきたいと。それをやるにしても、地元にはどんな産物があるのかと。地元には産物が無いと海外から原料を調達してきてしまい、地元には職場しか提供できなくなり、農家の方々の連続性ある収入が見込めないことになります。そういったことで、スープ工場が必要としている野菜を中心に、ネギやゴボウ、玉ねぎなどの生産拡大ができるかどうか相談している状況です。実際にこれらをどれくらいの単価で取り引きできるかということも大きな課題です。

食品というか漢方のツムラさんとも深く連携してしまして、実際にシャクヤクの栽培を始めています。この後、例えばシソの栽培にも入ります。反収では、米よりも手はかかりますが良いと、しかも軽いものですから、高齢者の方々にも取り組んでいただきやすいのではと、急速に準備を進めています。

また、朴木やキハダなど、漢方薬の原料として欲しいと言われています。日本で生産されている漢方の7割位はツムラさんです。その原料の7割から8割近くが中国産で、それをここ10年位の間で、その原料の4割位は国内産の物にしたいとのこと。

柴田会長

市長は、今後の開催時にも出席して下さるのでしょうか？

門脇市長

実は、私が出席することによって、皆さんがお話ししづらい状況になるのではないかと心配もあるのですが。委員に皆さんから出席しろという声があるのであれば出席したいと思います。

柴田会長

時間も過ぎてまいりましたが、いろいろご提案いただければと思っています。あくまでも実施する、取り組むのは市長をはじめとする仙北市ですので。

吉田委員

資料にある市民一人あたりの分配所得という数値がありますが、この数値はどのような意味ですか。

門脇市長

全人口に対するものです。

吉田委員

全人口に対する所得10%向上なんて、到底できるわけのない話ではないですか。

門脇市長

ですが、秋田県の統計数値ですので、比較する数値として使わせていただいております。

吉田委員

職種ごと、項目ごとの数値を出してみることも大切ではないかと思います。そうすれば、仙北市の強いところ弱いところが見えてくるのではないのでしょうか。より具体的な数値で比較してみてもどうでしょうか。

門脇市長

統計数値の捉え方、考え方について、企画政策課長からご説明します。

平岡課長

所得について一概にとは思いますが、様々な統計数値があるわけですが、皆様の議論にお役に立つものは提供していきたいと思っています。

柴田会長

次の機会にもまた、いろいろとご意見をいただきたいと思います。

それでは、ここ角館地域の独自テーマについて、事務局から説明をお願いします。

鈴木主任

独自テーマについては、各地域毎に固有の課題だったり、話し合ってみたい事項があるとのことから、3地区それぞれに独自テーマを設けていただきたいと思っています。

西木地域審議会では、潟前山森林公園の再生・整備・活用について、というテーマを設けていただきました。

合同審議会にて既に説明させていただいておりますが、過去においては、平成19年には3地区同じテーマではございましたが、定住人口3万人の確保と交流人口1000万人の具体的方策についてと、廃校舎の利活用について。平成20年21年については、農産物と観光の連携についてと、集落の健全化について。議論をしていただいております。

柴田会長

独自テーマについて決めていただきたいと思いますが、お隣同士で、5分程度少し話し合ってみてください。

(それぞれに話し合い)

柴田会長

様々に話し合っていたかと思いますが。その中で、全ての山に桜をという全山桜事業について話し合うということも出ていますが。他に何かありますか。

相馬委員

人口減少に歯止めがかからないという問題はどこでもありますが、かといって、定着させるための対策とかあまり目立ったものがないと感じます。他の地域だと、宅地造成してかなり新しい住宅が建築されているといった地域もありますが、仙北市角館は景色も良いので、宅地造成して人口増加に結びつけられないものかと。そういった対策についていかがでしょうか。

千葉委員

とても良いテーマではないでしょうか。いろいろな意味に繋がるテーマだと

思います。

藤原委員

今出されたテーマもすばらしいと思います。

新山委員

風光明媚な角館に施設を大きく作り、都会のお年寄りをお迎えすれば、そのご家族も年に1・2度は角館を訪れるようになるので、観光としても交流人口を増やせるのではないのでしょうか。

柴田会長

いろいろとご意見をいただきながら進めてまいりましたが、「人口減少対策について」と題して進めていくことにいたします。

千葉委員

市長にお願いしたいのは、収入の方もわかりますが、歳出の方も財政改革、組織改革をしてもらいたい。特に職員の給与的なもの、人員の数、そこらへんをきちっとしてもらいたい。というのは、交付税が減少していく中で、民間にできるものは民間におろしてもらいたい。アウトソーシングしてほしい。いくらでもあると思います。それによって、手狭な市役所内で職員たちが労働するよりも、民間の住民の方々に少しでも収入がいくようにアウトソーシングを考えてほしいのです。これをお願いしたいと思います。

門脇市長

歳出の削減と合わせて、アウトソーシングをすることでの歳出削減というカップリングのご提案をいただいたので、同時に進めなければ効果の無いことだと思いますので重く受け止めます。

柴田会長

他に、ご要望とかありますか。

石郷岡委員

大仙、美郷、仙北の3つの中で、それぞれの市町で農政のやり方が違うと、農協としてはやりにくいと思います。統一した農政をお願いしたいと思います。

門脇市長

仙北市とJAあきたおばこさんとは、2年前から職員の交流を行っています。大仙だったり、美郷さんだったりの農業政策を、JAさんの中にいることで統一性のあるものにと。大仙市の、美郷町の、仙北市の職員も同一セクションにしているようにしていただいています。共通性のもったものにとのご要望と思います。それに上乗せして、地域特性、土壌特性などにより、様々な作物を展開していこうと。まずは、人事交流をさせていただいているところです。

柴田会長

これで議事を閉じたいと思います。